

1. 社会経済情勢の変化（1）社会情勢の変化

- 本地区が位置する津島市及び愛西市（以下、「本地域」という。）の総人口は、平成17年と令和2年を比較すると7%減少し、愛知県全体と比較し11ポイント低くなっている。
- 一方、本地域の総世帯数は、平成17年と令和2年を比較すると11%増加しており、愛知県も19%増加している。

【人口、世帯数】 (単位：人、戸、%)

区 分	平成17年	令和2年	増減率
総人口	130,814 (7,254,704)	121,171 (7,542,415)	△7 (4)
総世帯数	41,241 (2,724,476)	45,976 (3,238,301)	11 (19)

(出典：国勢調査、表中（）は愛知県)

- 産業別就業人口は、第1次産業の平成17年と令和2年の割合を比較すると3ポイント減少しているが、令和2年の愛知県全体より1ポイント高い状況となっている。

【産業別就業人口】 (単位：人、%)

区 分	平成17年		令和2年	
		割合		割合
第1次産業	4,304 (102,471)	7 (3)	2,908 (75,528)	4 (3)
第2次産業	10,936 (1,273,655)	33 (35)	18,962 (1,301,294)	30 (32)
第3次産業	19,787 (2,271,237)	60 (62)	42,340 (2,635,606)	66 (65)

(出典：国勢調査、表中（）は愛知県)

※ 稲沢市は、集水域として0.8haのみであることから、津島市及び愛西市で整理している。

1. 社会経済情勢の変化（2）地域農業の動向

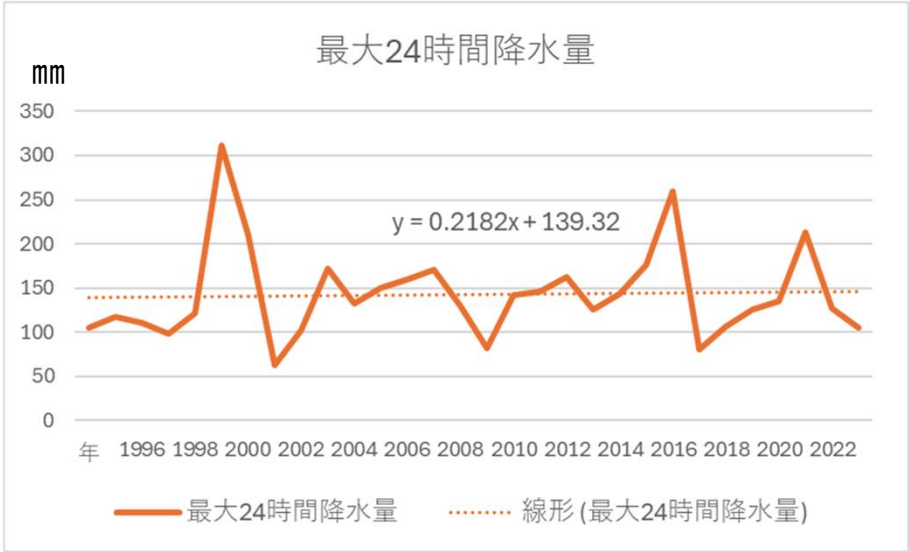
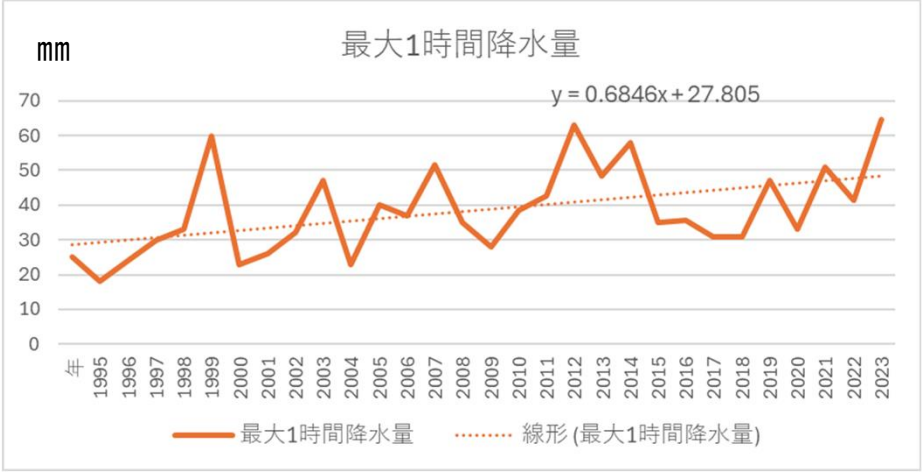
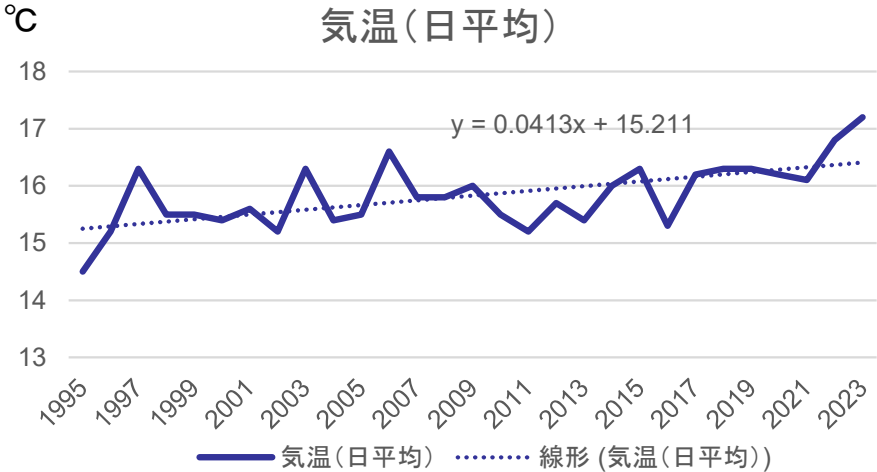
- 本地域の平成17年と令和2年を比較すると、耕地面積については7%、農業経営体数は53%、基幹的農業従事者数は49%、65歳以上の基幹的農業従事者数についてが43%減少している。
一方、経営体当たり経営耕地面積は88%、認定農業者数は17%増加している。

区分	関係市		
	平成17年	令和2年	増減率
耕地面積	4,083ha	3,812 ha	△ 7%
農業経営体数	2,487戸	1,179戸	△ 53%
基幹的農業従事者数	3,376人	1,722人	△ 49%
うち65歳以上	2,015人	1,149人	△ 43%
経営体当たり経営耕地面積	1.07ha/経営体	2.01ha/経営体	88%
認定農業者数	161経営体	188経営体	17%

（出典：農林水産統計年報、農林業センサス、「認定農業者」は東海農政局調べ

1. 社会経済情勢の変化（3）気象状況の変化

○ 本地域の気象の観測結果を見ると、気温では過去30年（平成7年～令和6年）で約1.2℃上昇している。過去30年の降水量をみると最大1時間降水量で約20.5mm、最大24時間降水量で約6.5mm増加している。



資料)気象庁HP(愛西観測所)

2. 事業により整備された施設の管理状況

- 本事業により整備された排水機場は、愛知県から領内川用悪水土地改良区に譲渡され、適切に維持管理されている。
- また、土地改良区への聞取りでは、自動運転やトラブルの減少により負担が軽減したとの声があった。

【土地改良区のコメント(農政局聞き取り)】

・根高排水機場の事業実施前ポンプのうち、1番大きいポンプは補機類の不具合から手動で稼働しなければならず、手間であった。事業実施後は水位による自動運転となり負担が軽減した。

・横型ポンプから縦方ポンプになり、横型で必要な補機類の作動が不要になった。また、補機類はトラブルが多かったが、そこから解放され、維持管理費の節減に繋がった。

・津島市側の方が低平地であることから、湛水しやすいため、豪雨に備え、市が向島第2、根高第2機場を運転、予備的な排水を実施することがある。(津島市と領内川用悪水土地改良区で協定を結んでいる。)

定期点検の状況



土地改良区が小学生に地域排水をPR

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化（1）湛水被害の発生

○ 本事業の実施後、計画基準雨量336.0mm/3日(1/20確率雨量)を超える豪雨は発生していないが、降雨時には改修された排水機場を稼働させることにより、地区内において湛水被害は発生していない。

【湛水被害】 (単位：千円)

区 分	事業計画(平成20年)		評価時点 (令和7年)
	現況 (平成20年)	計画	
被 害 額	78,702	26,916	0

注1) 事業計画の現況及び計画は、本地区における事業実施前後の排水形態において、計画基準雨量を想定した際の湛水状況をシミュレーションにより算出し、年被害額を求めた。
注2) 評価時点は、事業完了後から評価時点までの間に湛水被害が発生していないため、0とした。
出典) 愛知県調べ)



平成12年9月11～12日 3日雨量 345mm
田面+35cm (愛西市佐織町松川地内)

直近5か年の降雨状況 (単位： mm/3日、mm/時間)

区 分	計 画	令和2年	3年	4年	5年	6年
最大3日連続降雨量	336.0	172.0	179.5	214.5	129.5	209.0
(最大1時間降雨量)	54.1	47.0	34.5	53.0	42.0	65.0

※計画基準雨量：S10～S60の期間の降雨による1/20確率雨量
出典) 愛知県調べ、気象庁HP



平常時

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化（2）維持管理費の節減

- 本事業で整備した施設は、管理者である領内川用悪水土地改良区により保守・管理が行われ、適正に維持管理されている。
- 評価時点の維持管理費は、排水能力向上を反映した事業計画時の計画より下回っているが、向島排水機場での停止水位を下げたことによる稼働時間の延長や近年の電気代高騰により現況（H20）を上回っている

維持管理費

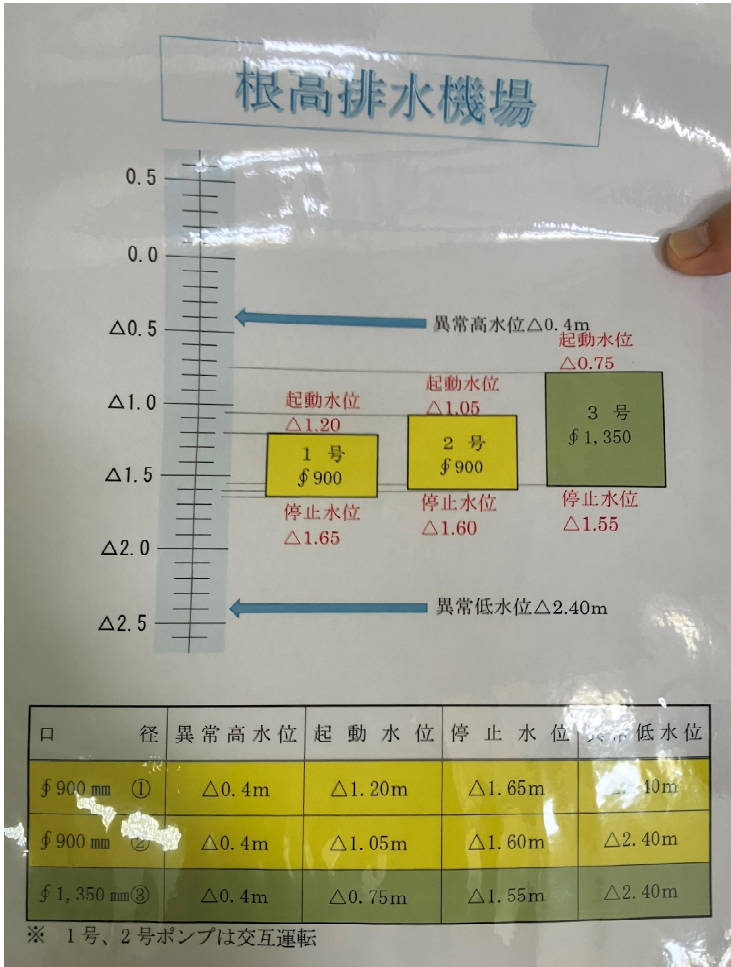
単位：千円/年

区分	事業計画（平成20年）		評価時点 （令和7年）
	現況 （平成20年）	計画	
排水機場	9,137	11,325	9,379

出典)事業計画書、領内川用悪水土地改良区調べ



横軸タイプの補機類の故障が多かった。



ポンプは、水位による自動運転となり、事業実施後は定期的(週2回)な見回りのみとなった。

4 事業効果の発現状況（1）事業の目的に関する事項

①農業関係資産への被害の防止・軽減

- 本地区は、水稻、大豆を中心に、にんじん、ねぎ、いちご、トマトなど都市近郊を活かした様々な農作物が生産されている。
- 事業実施前に見られた農地等の農業関係資産の湛水は、評価時点において抑制されており、農業関係資産への被害の防止・軽減により堅調な農業生産が維持され、本地区農業経営の安定に寄与している。

地区内の主な作付状況(R5) 単位:ha

水稻	大豆	にんじん	いちご	ねぎ
86.1	15.5	3.5	1.9	0.8

出典)愛知県調べ



【参考】地区内の営農状況

【地区内農業者の声】(農政局聞き取り)

◇水稲(あいちのかおり)中心、この他ねぎ、コマツナ、ブロッコリー、いちご等を栽培している。

◇湛水による農作物被害の経験はこれまでにない。ポンプが更新され、水の引きが早くなった。

◇排水ポンプは心臓部のようなものでこれを更新するのはいいが、末端部も改善してほしい。ここは用排兼用水路であるため、堰き止めて水を溜めている。未だに木の堰板の箇所があり微調整ができないため用排水面でも苦労している。(下写真参照)

◇地元の協力体制は必要。(草平地域では)2月第1週に地域の人と江ざらいをしている。



越津ねぎ



木の堰板



整備された水門

【地区内の特産品】

【越津(こしづ)ねぎ】

◇津島市越津町が発祥で江戸時代から栽培され、愛知県の伝統野菜に指定されている。

◇特徴は、白ネギ(根深ねぎ、千住系)と青ネギ(葉ねぎ、九条系)の中間にあたる品種で、白い根の部分も青い葉の部分もどちらも柔らかく美味しく食べられる。

◇分けつ(株分かれ)が多く、通常の一本ネギより細めで、甘味があり水分が多いのも特徴。

